令和８年(2026 年)10 月 15 日

生徒・保護者の皆様

札幌市立稲穂中学校
校長　高木　浩二

稲穂中学校　第 36 回開校記念日にあたり

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、11 月１日（日）は本校の 36 回目の開校記念日にあたります。法令に従い、特別な休みとはなりませんが、本校のこれまでの歴史を振り返る機会にしていただければと思います。今後とも、本校がより発展するよう、教育活動に取り組んでいく所存です。保護者の皆様におかれましても、さらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

稲穂中学校の開校を振り返って

平成２年(1990 年)４月１日、仮称「稲穂中学校」の開校に向けて、初代の校長先生、教頭先生の予定者が決まりました。６月には本校舎と体育館の工事が札幌市手稲区稲穂４条２丁目 88 番地の１（現在は稲穂４条２丁目 18 番 10 号）の地で始まり、翌平成３年(1991 年)３月に完成しました。本校舎、体育館、グラウンドは手稲山の斜面を切り拓き造られました。その間、校章のデザインや校歌の作詞・作曲、玄関前にあるモニュメント「拓く」の制作などが行われ、現在に受け継がれています。

平成２年(1990 年)11 月１日には、札幌市学校設置条例の改正に伴い、正式に「札幌市立稲穂中学校」の設置が決まり、本格的に開校に向けた準備が始まりました。ですから、この日を本校では「開校記念日」と定めています。

開校式は平成３年(1991 年)３月 26 日に、新２・３年生の生徒（手稲中学校 232 名、手稲西中学校 125 名）や保護者、地域の方々、教職員が参列し、多くの方々の期待と夢を担って執り行われました。

今年度で 36 回目の開校記念日を迎えますが、校風や伝統は一朝一夕にできるものではなく、長い年月を経て培われていくものです。私たちはこの開校記念日に、これまで本校に携わっていただいた多くの卒業生や地域、保護者の皆様、歴代の教職員の方々のたゆまぬご支援に改めて感謝する必要があると思います。そして、これからへの思いを新たにしていく節目として、11 月１日を迎えたいと思います。

《校　　章》

デザイン：山下嘉昭氏

自然を愛することの優しさと、厳しい北国の風雪に耐えてたくましく生きていく生徒、知性あふれ、心豊かな人間に成長してほしいという願いが込められています。

稲穂の地にたわわに実る稲の穂、緑につつまれた豊かな森、それが基本となっています。風雪に耐え、どっしりと根を下ろした樹木、両側には量感豊かな木の葉をイメージし構成しました。

《モニュメント「拓く」》

制作：上田公夫氏

「人」と「拓く」が基本になっています。上から見ると「人」の字になり、波形は開拓
者なのい個な表に真たとこい
「人のり波まのスし向っくいめ
」苦とをす。波タ、か直ようま
の労石表しはーっぐう願れす。
重狩し10新ト「てはに」が
湾てたを来ばいて

《校木　エゾヤマザクラ》

地域に根ざし、厳しい風雪・朔風に耐えて、美しく咲き誇るエゾヤマザクラ
は、求める生
徒像と一致
します。「地
域を愛し、強
くたくまし
く生き、盛夏
を結ぶ」い
う願いがこ
められてい
ます。